



研究の現場から

オンライン道徳科学研究フォーラム

現代社会問題に対する

モラロジীরのアプローチ その2

道徳科学研究所 客員教授
共同研究プロジェクトリーダー

なかやま おさむ
中山 理

今回の共同研究は、昨年度から取り組んでいる「現代問題に対するモラロジীরのアプローチ」の第二弾で、前回と同じ問題意識を共有しながら、現代社会の諸問題を新たに選び出し、モラロジীর視点から分析し考察してみようという試みです(ちなみに、第一弾のテーマは、『ソロ社会』をどう生きるか「現代経営学と道経一体論の対話」SDGsからみる日本の諸課題「いじめ問題と向き合う」でした)。

それでは、今回のプロジェクトで協働する四人の研究員をご紹介します。

まず、竹中信介研究員は「変わりゆく食の風景」ポストコロナ時代の『食と料理』が研究テーマです。現代日本は「豊食」「飽食」「崩食」の時代に突入し、食料が大量廃棄されるなど、「食」や「生命」への感謝や畏敬の念が失われつつあります。さらにコロナ禍以降の「新しい生活様式」の導入で「食と料理」のあり方も変化している

ことを踏まえながら、現代の学問的成果を参照しつつ、廣池千九郎の思想と事績からアプローチを試みます。

次に冬月律主任研究員のテーマは「信仰継承の現代的課題」です。日本人の宗教性や信仰が希薄化している現代、少子・高齢化によって、近い将来に信仰の継承が困難な地域の神社や寺院が消滅の危機にさらされています。「現代日本人にとって伝統宗教、とくに神社を信仰することの意義は何か」という問いを投げかけ、神社神道の歴史を概観し、その信仰生活事例を取り上げながら日本人の信仰継承の意義を探ります。

犬飼孝夫所長は「徳は孤ならず必ず隣あり」社会的孤立をめぐる諸課題」というテーマを掲げ、社会的孤立問題の解決策として注目されている「社会的処方」という手法について考察します。「社会的処方」とは、例えば、ストレスや孤独を感じてい

る当事者を地域の趣味のサークル活動になぐというように、薬剤による治療ではなく、当事者の特性や関心を尊重しつつ「地域とのつながり」を処方することで、社会的孤立をなくし「人と社会を幸せに」する手法です。

最後に、これから世界に先駆けて本格的な高齢・多死社会に突入しつつある日本の将来を注視する筆者は、「老年学とモラロジীর」をテーマに選びました。現在、この老化とウェルビーイングの問題に対し、老年学や死生学などの科学的なアプローチが試みられています。総合人間学としてのモラロジীরではどのようなアプローチが可能なのか、ともに考えてみたいと思います。

この共同研究の成果は、来る九月三十日のオンラインフォーラムで発表したいと思いますので、少しでも多くの方に参加していただき、忌憚のないご意見交換ができればと考えています。

日時：9月30日(土) 午後2時～5時
開催形態：オンライン形式(オンデマンド配信あり)
参加費：個人2000円 団体1万円(5名以上)
申込方法：下記QRコード、もしくは維持員専用ホームページからお申込みください。
締切：9月27日(水)

【お問い合わせ先】
道徳科学研究所 事務局
電話 04-7173-3252
Eメール rc@morology.jp

